

k o k y o s o t s u s h i n 高教組通信 No. 3

2015年6月12日
兵庫高教組書記局

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com> E-mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

NPT再検討会議 ニューヨーク行動代表団報告

カンパにご協力いただいた皆様
ありがとうございました！

2015年4月27日から5月22日までニューヨークの国連本部で第9回核不拡散条約（NPT）再検討会議が開催されました。日本原水協はこの会議に向け署名をはじめ様々な行動を提起し、1058名の代表団が現地に渡って活動しました。兵庫高教組からも皆さんのカンパ協力を得て、書記長の梅林が4月25日から5月1日までの期間で参加しました。ここでその報告をさせていただきます。

◎NPT再検討会議とは？

核不拡散条約（NPT）は、核兵器廃絶を目的として、核兵器保有国には核兵器の削減を、非保有国に対しては保有しないことを求めた条約で、1970年3月に発効しました。加盟国は発効時の62カ国から191カ国へと増加し、現在は5年ごとに「再検討会議」を開催しながら、軍縮と核廃絶の進展具合を点検し今後の方向性について議論されています。今回は、前回（2010年）採択された核軍縮・不拡散のための行動計画がこの5年間でどこまで進展したか

が議論されました。しかし、核保有5カ国（米英仏中ロ）は「核兵器の非人道性」については若干の留意はするものの、「核兵器禁止・廃絶のための法的枠組み」については議論すること自体を避け続けています。非同盟諸国や新アジェンダ連合などが中心になって最終文書案に核兵器を禁止する法的拘束力のある文書や枠組みの必要性を盛り込むよう要求し、ギリギリまで調整が続きましたが、核保有国は強く反発しました。

◎大集会と1万人パレード



代表団に参加するに当たって、ニューヨーク市民と交流するための「原爆詩折り鶴」を準備しました。峠三吉の原爆詩「人間をかえせ」の英訳を印刷した折り紙で、「平和の折り鶴」を高教組の仲間や家族・友人に数百羽折ってもらいました。それを署名してくれた人へのお礼に、またはパレードをしながら沿道にいる子どもに配りました。その場では、大抵「Wow! Beautiful! Thank you.」と受け取ってくれますが、その

後折り紙をひらいて詩を読んで、何かを感じてくれた人がどれ位いたのだろう…と気になるところです。ニューヨークの街で署名活動をしながらまず感じたことは、無視をする人がほとんどいないということです。興味がなくとも「I'm sorry.」とちゃんと断ってくれます。また、署名してくれる人も必ず納得してから「O.K.」と言って署名してく



れますし、説明しても納得できなければ「自分は核抑止力は必要だと思う。」等と理由を言って断る人が多かったです。私1人で署名してもらえたニューヨーク市民はたったの24人でしたが、今回日本から参加した千人以上の代表団が掲げた核廃絶への訴えは決して小さなものではなかったと思います。ユニオンスクエアでの大集会では、隣にいた黒人女性がさっきまで「みんなの力で世界から核を無くそう！」

という呼びかけに大きな声援を送っていたと思ったら、被爆者の訴えに大粒の涙を流していたのが印象的でした。その後の、国連前までの1万人のパレードは圧巻でした。現地に集まった核廃絶への熱い思いが一つの大きなうねりとなってニューヨークの中心街を流れていきました。このうねりは、今後追いつめられた核保有国がいくら抵抗しようとも、もう後戻りすることのない世界の潮流です。



◎決め手は市民社会の力

NPT再検討会議では、残念ながら最終文書の合意には至りませんでした。しかし、潘基文国連事務総長から寄せられた「全ての締約国の皆さんに市民社会の運動と関わりを深めるよう促

したい」というメッセージに象徴されるように、私たちの運動と世論に後押しされて核兵器禁止・廃絶を主張する政府は国際政治の中で7～8割にのぼっています。残された核保有国や日本のような核依存国で核兵器全面禁止の世論をさらに大きくし、政府を追いつめる以外に核兵器のない世界を築く方法はありません。



◎さあ、ヒロシマ・ナガサキへ！

また今年も、戦争と平和に思いをはせる夏が近づいてきました。昨年、一緒に広島世界大会に参加した青年教職員は「たくさんの若者たちが『平和な世界』を願い活動している姿を見て、一步を踏み出す勇気を私はもらいました。」と発言してくれていま

す。国民平和行進や広島・長崎での世界大会を被爆70年の節目にふさわしいものに出来るように、まずは私たちの周りに、本物の平和への願い、核兵器廃絶への願いを1人ずつ広げていきましょう。

◎UFT(United Federation Teachers)訪問（オマケ）

4月28日、ニューヨークで15万人の組合員を抱える教職員組合UFTを訪問しました。1960年に誕生してからの運動の歴史や現在抱えている課題等を話していただく中で、競争の教育（over testing）が進み、教育の民営化が心配されている状況等、日本と共通する課題も幾つか話されました。情報交換の中で、日本では教室に生徒が40人いると聞いたあちらの先生が目を丸くして言った「Wow!...Good Luck...」という言葉が印象的で、改めて日本の常識は世界の非常識なんだと痛感しました。超過勤務についても「『人間らしく生きる』ことを生徒に教えるためには、私たち自身が自分の生

き方を考え楽しむことが必要だし、そのための時間は大切。土・日は自分のための時間です。働き過ぎで亡くなってしまう先生がいるような社会は変えなければならない。」とおっしゃっていました。

学校も訪問し、14,5歳の数学のクラスも見せていただきました。教師が準備に時間をかけている様子や生徒達が学ぶことを楽しんでる様子が伺われる授業でした。

